黙想の祈り:年間第 16主日(B年)

黙想のテーマ:「重要なことと緊急なことを識別する」 「他者に必要なことを認知する」「幸せへの渇望を満たす」

重要なことと緊急なことを識別する

他者に必要なことを認知する

幸せへの渇望を満たす

使徒たちは宣教から帰ったばかりで す。彼らは二人ずつ組みになって 村々を巡り、回心を説き、悪魔を追 いはらい、病人を癒しながら、素晴 らしい数日を過ごしました。そし て、彼らは「自分たちが行ったこと や教えたことを残らず」(マルコ6・ 30) イエスと分かち合うことが必要 だと感じたのです。すると主は彼ら に耳を傾けられた後、仰せになりま す。「さあ、あなたがただけで人里 離れたところへ行って、しばらく休 むがよい」(マルコ6・31)。主は確 かに弟子たちの感動と喜びをご存知 でしたが、その疲れを心配されたの です。「ところで、どうしてそうさ れるのですか。それは、常に待ち伏 せているある危険から彼らを、ま た、私たちをも守ろうとお思いに なったからです。つまり、熱意に任 せて活動を続けて、活動主義の罠に 陥る危険です。そこでは、成し遂げ た成果が最も重要であり、それをな し遂げた自分が絶対的な主人公であ

ると思ってしまう危険があるからです」[m]。

使徒の生活は今日でも多忙を極める ものです。多分、時折、24時間では 足りないと思う日があるでしょう。 計画されていることを全て果たせな いと思うことが、度々あるからで す。家族や仕事、友達との付き合い や社会的な約束事のための時間は、 私たちが日々関わる重要なことがら です。ですから、あの時、イエスが 離れたところで休むよう勧められた のは、〈やりたいと思う〉ことが あっても、実際には計画がいっぱい なので〈不可能〉だと判断できるよ うにするためです。私たちは、長期 的な観点から見て立ち止まることが 必要だと分かっていても、それは責 任の放棄なのではないかと考えてし まいがちです。

それで、聖ホセマリアは、重要なことと緊急なことを区別するよう促し

たのですセズ。 度々、私たちは、自分 の時間や力を〈緊急だ〉と思えるこ とに向け、すべてを出来るだけ早く 上手にやり遂げることを望みます。 多分、それが必要な事柄もあるで しょう。しかし、多くの場合、その 〈緊急なこと〉には、他の方法で対 処できることにも気づきます。いず れにしろ、私たちは〈重要なこと〉 は、父なる神の慈しみ深いまなざし を意識しつつ、日々の活動を意義あ るものにすることだと知っていま す。休息の時は、主が使徒たちに休 むよう勧められた時のように、この 現実を再発見させてくれるでしょ う。少し〈離れること〉は、私たち がより重要なこととつながるよう助 けてくれます。つまり、キリストと の親密さを深め、主が、私たちの全 てのことに同伴しておられることを 思い出させてくれます。弟子たちが 奇跡を行ったのは、彼ら自身の力に よるのではなく、イエスからその力 を頂いたからです。ですから、物事

を実現させるためには、主とつながっていることが、何よりも重要なのです。「あなたは〈神の人〉、内的生活の人、祈りと犠牲の人となる必要がある。あなたの使徒職はあなたの〈心の中〉の生活があふれ出たものでなければならない」[3]。

イエスと使徒たちの存在が、人々に 気づかれないことはなかったので す。「船に乗って、自分たちだけで 人里離れたところへ」 (マルコ6・ 32) 行ったにもかかわらず、近隣の 町の多くの住民が、彼らを認め、近 づいたのです。下船されたキリスト は、「大勢の群衆を見て、飼い主の いない羊のような有様を深く憐れ み、いろいろと教え始められた| (マルコ6・34)。「イエスは誰にで も言葉をかけてくださる。それは、 癒し、慰め、照らす言葉である。こ

れこそ、あなたと私が常に、そして 仕事や困難の重さにうちひしがれて いるときにも、思い出すべきことで ある | [4]。

活動主義は、他の人に必要なことを 見て取ることを難しくします。〈し なければならない〉と、信じている ことを最優先させるべきだと考える からです。それ自体は、良いことで あっても、時に、他者が本当に望ん でいる事柄への関心を無くしてしま うのです。例えば、父親や母親は、 子供たちが余裕のある生活ができる よう、什事の時間を増やすることが 考えられます。しかし、本当に必要 なことは、経済的な配慮だけではな いかもしれません。彼らは、両親が 家庭で一緒に過ごし、共に楽しむ時 間を増やすことを望んでいるかもし れません。

イエスは、船上で弟子たちと共に休 息された後、人々が本当に関心を

持っていることに、注意深いまなざ しを向けられます。「忙しさに取り 紛れない人だけが、感動することが 出来ます。つまり、自分のことやす べきことだけに没頭することなく、 他者の傷や彼らが必要としているこ とに気づくことが出来るのです。同 情は観想から生まれます。本物の休 息ができるようになると、同情も本 物になります。よく見て考えるよう になると、あらゆるものを持ちた がったり、使いたがったりする子供 のように振舞うことなく、私たちの 活動を前進させることが出来ます。 私たちが主とのコンタクトを保ち、 清い心を持つなら、しなければなら ない事柄が多くても、気力を無くし たり、没頭しすぎたりすることは起

こらないでしょう | 「5」。

キリストは、あの人たちの幸せへの 渇望を知っていました。後ほど、パ ンと魚を増やして空腹を満たされま すが、その前に、あの群衆に霊的な 〈糧を与える〉ことを望まれたので す。「これは、神が私たちのために 命をお望みであることを示していま す。神のお望みは、私たちが食事を し、休息できる良い牧場に導くこと であり、私たちが迷ったり死んだり することではありません。私たちの 道の終わりに待っている、絶対的な 命を満喫させることなのです。親が 子供たちに望んでいる、善と幸せ、 それが実現されるのです | でる。

周りの多くの人が、イエスのことを 知らせてくれるよう願っています。 それはいろいろな形をとって表れま すが、一般的に幸せへの渇望として 表れます。そして私たちは、その 望は主のみによって満たされること を知っています。それゆえ聖ホセマ リアは「同僚の中の一人として生活 する普通のキリスト信者、その信者 の使徒職はすばらしいカテケージス である」と言いました。「誠実で 摯な友情と交際を通して、人い うなを うなを うなです。前にもふれたよう に、ごく自然に、行いを伴った信仰 の模範と、優しいが神の真理に基づ ならないのです」「」。

人々と分かち合える素晴らしい多くの〈糧〉の一つは、主と共に生きる喜びです。それを、自身の生活で伝えることが最も良いやり方です。

「憎しみを抱かず、包容力を持ち、 狂信的にならず、本能を克服し、犠牲を甘受し、人々に平安を与え、愛 し合う私たちを見る人が、これこそ キリスト信者である、と言えるよう にふるまわなければなりません」

図。聖マリアに、私たちが御子と同じまなざしで周りの人たちを見て、 彼らの神への飢えを満たすことが出 来るよう助けてください、とお願いしましょう。

[1] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2021年7月18日。

[2] サルバドール・ベルナル、『ホセマリア・エスクリバー師:オプス・デイ創立者生涯の記録』 (Salvador Bernal, Mons. Josemaría Escrivá de Balaguer. Apuntes sobre la vida del fundador del Opus Dei, Rialp, Madrid, p. 208)参照。

- [3] 聖ホセマリア『道』961番。
- [4] 聖ホセマリア『鍛』254番。
- [5] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2012年7月18日。

[6] ベネディクト十六世、「お告げの祈り」でのことば、2012年7月22日。

[7] 聖ホセマリア『知識の香』149 番。

[8] 同122番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-16shujitu-b/(2025/12/16)